令和２年度　臨床研究テーマ成果報告書

診療科（部）名：看護部

第３期中期目標・中期計画期間中の臨床研究テーマについて該当するものにチェックを入れてください。(塗りつぶし可)

☐１．口腔領域における新規組織再生・再建法の開発
☐２．高齢者の特性に配慮した口腔疾患の予防法・診断法・治療法の開発
☐３．顎口腔機能の維持増進に関する研究
☐４．歯科医学臨床教育の質保証に関する研究
☑５．その他

研究期間：2020 年 9 月 7 日～2023 年 3 月 31 日

研究課題名：継続した口唇裂・口蓋裂児の哺乳技術指導に対する遠隔教育プログラムの検討

研究課題の概要及び成果：口唇裂・口蓋裂(以下、CLP)は、出産直後より直接母乳での哺乳に困難を認める[1)]。その際、専用乳首(ピジョンの口唇口蓋裂児用専用乳首、チュチュメディカルタイプ、スペシャルニーズフィーダ等)による哺乳を選択する[2)]。当院へ初診来院しホッツ床が装着されるまでは、患児の裂幅や児の吸啜力などに問題があり哺乳困難となるケースを見受ける[3)]。当院では、CLP 児が出生した医療機関へ早期(出産当日～翌日)に、口腔外科医と看護師がチームで出向き、看護師は哺乳指導を行っている[4)]。その際、児の裂型や哺乳状況に合わせた専門知識・技術の提供を行っているが、一回の訪問による哺乳指導では、医療者や児の家族が専門的な哺乳技術を習得することが困難なケースをみとめた。乳首の構造・仕組み・哺乳メカニズムに対する知識や高度な授乳技術を必要とし、児を療育する家族は哺乳に対して困難感や不安を感じており、産科医療機や母親に対する継続した技術指導の支援は必要である[5)]。

本研究では、産科医療機関をはじめ CLP 児の家族に対する哺乳技術確立を目指す遠隔教育プログラムとしてメディア教材を作製し、ホームページへの掲載を行う。その教材に添付したアンケートにより、これまでの哺乳指導の状況、メディア視聴するまでの哺乳の困りごと、視聴後技術習得に役立ったか、分かりにくい内容などについて実態調査を行うことを目的とする。得られた結果を遠隔教育プログラムの発展につなげ、さらなる早期哺乳技術の習得の向上へつなげることは、意義があると考える。

現在、出向先の産科医療スタッフ・患者家族および当院治療中の患者家族に対する教育ツールとして、哺乳指導のメディア製作を終え、ホームページへの掲載に向けての準備を進めている。また、その取り組みについて、2021 年 3 月 5 日第 4 回ソーシャルスマートデンタルホスピタル(S2DH)において発表を行う予定である。

1) 古郷幹彦，西尾順太郎：顔面・口腔の異常．白砂兼光，古郷幹彦編集；口腔外科学．第３版，43-45，医歯薬出版，東京，2010.
2) 松原まなみ，他：口唇口蓋裂児の哺乳支援．科学研究費補助金助成研究成果報告書．43-48，2013.
3) 熊谷由加里，他 ：哺乳が困難な口唇口蓋裂児に対する細口ニプルの有用性．日口蓋誌．43，124，2018.

4）熊谷由加里．：口唇口蓋裂児とその家族に対する出生病院への早期出向看護支援の取り組み．小児看護，35：1805-1808，2012.
5）熊谷由加里．：口唇口蓋裂児に対する歯科口腔領域専門病院からの早期出向看護支援の意義．小児看護，40(7)，884-891，2017.

当該臨床研究が「口の難病プロジェクト」に関連しているか否か下記のＢＯＸのいずれかにチェックを付してください。（塗りつぶし可）

☑　関連がある

☐　関連はない